

令和7年度上越市・妙高市在宅医療・介護連携推進協議会

第3回対人支援スキルアップ部会を開催しました

○1月16日（金）に第3回対人支援スキルアップ部会を開催しました。参加者は、部会メンバー6人、上越地域在宅医療推進センター1人、事務局4人の11人でした。



○今回の議題

- (1) 新潟県在宅医療推進フォーラムの紹介
- (2) 上越市・妙高市在宅医療・介護連携推進協議会の報告
- (3) 3年間の活動の振り返り
- (4) 取組発表会について

○部会での検討事項等

- (1) 新潟県在宅医療推進フォーラムの紹介
 - ◇本部会委員（小山理学療法士）の発表部分を視聴しました。
 - ・テーマ「最期の希望を紡ぐリハビリテーション：“わたし”の物語に寄り添う」
 - ・事例1：「味噌汁を作りたい」
⇒台所に立つ喜びと自分の役割を支援
 - ・事例2：「久しぶりに外に出られたら」
⇒機能回復を支援したことでもたらされた希望
 - ・事例3：「デイサービスの職員に感謝の気持ちを伝えたい」
⇒感謝の気持ちを伝える自己実現を支援
 - ・事例4：「自宅で最期を迎えたい」
⇒家族支援とグリーフケア
- ◎当日の様子は、下記URLからアーカイブ配信を確認することができます。

<http://www.niigata.med.or.jp/zaitaku/>

(2) 上越市・妙高市在宅医療・介護連携推進協議会の報告

◇協議会の内容について共有しました。

(3) 3年間の活動の振り返り

◇部会での成果や学び、感想について共有しました。

- ・部会の中で支援を振り返るきっかけが何度もあり、業務の中で対応に困るケースが減ったように感じている。
- ・多職種の人と話をすることでスキルアップにつながった。
- ・「本人（支援を受ける人）が望んだ生活ができてい」と支援者が実感できるまでになるのが対人支援の最終目標だと思う。この目標を達成できるように、今後も意識していきたい。
- ・他の職種が何をしているのか、どういう考えを持っているのか不明瞭であるがゆえの不信感を払拭したいという思いからこの部会は始まった。
- ・「関わる人を幸せにしたい」という多職種の共通基盤があるため、その基盤を共有することができればうまくいくのではないかと思い、取り組んできた。
- ・取組を進めていく中で、「人を支援する」という深い意味が見えてきた。
- ・人は学んだことを日々の繰り返しの中で忘れてしまうものであるため、繰り返し研修を行うことが必要。
- ・若い職員に研修を受けてもらうようにすると対人支援の考え方が広まっていくのではないか。

(4) 取組発表会について

◇2/14に開催する在宅医療・介護連携推進協議会取組発表会において、当部会から参加者へ伝えるべきキーワード等について意見交換を行いました。